

自己点検・評価表

(参考：日本語教育振興協会「日本語教育機関のための自己点検・評価項目（2025年版）」)

日本語教育機関名：学校法人 柴永国際学園 ジェット日本語学校(2025年度分) 実施日：2026年03月30日、04月24日、05月01日、05月15日		
点検・評価項目		
評価項目1 認定日本語教育機関の目的及び目標の達成状況に関すること。		
1.1	理念・ミッション	
	日本語教育を通して、日本の良き理解者育成と、留学生の全人的な成長を図る。	確認 <input checked="" type="checkbox"/>
1.2	教育目標	
	高度な日本語力を習得し、自立的に、広い視野から、日本の社会、文化、歴史および日本人の考え方などを深く理解できるようにする。日本の高等教育機関への進学予備教育および就職指導は、この目標をさらに高い次元で達成するという観点から推進する。	確認 <input checked="" type="checkbox"/>
1.3	育成する人材像	
	日本という異文化での留学生活を通して、様々な価値観を理解し適応できる視野と柔軟性を備えた人材。日本人の考え方を理解し、相手に対する配慮や礼節をわかまえつつ自分の意思を伝えられるコミュニケーション力を備えた人材。	確認 <input checked="" type="checkbox"/>
1.4	理念、教育目標が社会の要請に合致していることを確認している。	A
1.5	理念、教育目標及び育成する人材像が、教職員及び学生に周知されている。	A
評価項目2 教員及び職員の組織運営に関すること。		
2.1	認定日本語教育機関認定基準又は日本語教育機関の告示基準に適合していることを年1回以上確認している。	確認 <input checked="" type="checkbox"/>
2.2	運営の透明性が確保されている。(以下小項目を点検)	
2.2.1	校長、主任教員、専任教員、非常勤教員、事務局統括職員、事務職員の職務内容及び責任と権限を明確に定め、かつ、教職員間で周知されている。	A
2.2.2	管理、運営のための諸規程を整備し、規定に基づいた運営が効果を上げている。	A
2.2.3	予算編成が適切になされ、明確なルールにより執行している。	A
2.3	運営に必要な情報が機関内の関係者間で共有されている。(以下小項目を点検)	
2.3.1	機関の短期及び中長期目標が教職員間で周知されている。	A
2.3.2	運営や教育活動に必要な情報を教職員間で共有する仕組みがあり、機能している。	A
2.4	運営にあたり法令を遵守している。(以下小項目を点検)	
2.4.1	コンプライアンス意識向上のため担当者を定めて取組を行い、効果が出ている。	A
2.4.2	関係官庁への届出、報告を遅滞なく行っている。	A
2.5	教育活動を担う教職員について。(以下小項目を点検)	
2.5.1	教育目標達成に必要な教職員の能力及び資質を明示している。	A
2.6	適切な方法で入学者の募集を行っている。(以下小項目を点検)	
2.6.1	教育目標に合致した募集計画を立案し、募集地域や対象者を定めて募集活動を行っている。	A
2.6.2	機関所属の職員が入学希望者に対して情報提供や入学相談を行っている。	A
2.6.3	海外の募集代理人に最新かつ正確な情報提供を行っている。	A
2.6.4	海外の募集代理人の適切性を確認し、募集活動を具体的な情報により把握している。	A
2.7	適切な方法で入学者の選考が行われている。(以下小項目を点検)	
2.7.1	受け入れるコースの教育内容が入学志願者のニーズと合致していることを確認している。	A
2.7.2	入学選考基準及び方法が定められ、適切な体制で入学選考を行っている。	A
2.7.3	入学志願者の学習能力、学習意欲、日本語能力等を確認している。	A

2.7.4	入学志願者の情報を正確に把握し、提出された根拠資料で確認している。	A
2.7.5	不法残留者を多く発生させている国からの志願者には機関所属職員が面接等の調査を行っている。	A
評価項目 3 施設及び設備に関すること。		
3.1	語学学習に適した施設・設備である。(以下小項目を点検)	
3.1.1	教室内は十分な照度があり換気がなされているとともに、必要な遮音性が保たれている。	A
3.1.2	視聴覚教材や ICT を活用した授業が可能な教育用機器及び設備が備わっている。	A
3.1.3	授業時間外に自習できるスペースおよびリソースを提供している。	A
3.2	学生及び教職員の安全を考慮し、適切な対処を行っている。(以下小項目を点検)	
3.2.1	法令上必要な設備等を備えている。	A
3.2.2	廊下、階段等は緊急時に危険のない形状である。	A
3.2.3	バリアフリー対策を施している。	C
評価項目 4 日本語教育課程の編成及び実施に関すること。		
4.1	教育目標に合致した教育活動の計画を作成している。(以下小項目を点検)	
4.1.1	理念と教育目標達成のためのカリキュラムを編成している。	A
4.1.2	学生の熟達度を、特定の試験の成績だけで判定するのではなく、「日本語教育の参照枠」の枠組みの中に位置づけて理解する試みを行っている。	A
4.1.3	理念及び教育目標に適合した教材が選択、又は制作されている。	A
4.2	教育活動を適切に実施するための手立てを講じている。(以下小項目を点検)	
4.2.1	教育活動の計画が教員全体に周知されている。	A
4.2.2	学生の日本語能力を試験等により判定し、適切なクラス編成を行っている。	A
4.2.3	当該学期の学習内容及び学習予定等を学生に開示している。	A
4.2.4	出席簿を備え、正確に記録している。教育活動の振り返りと改善に活かせるような形で授業記録簿を残し、記録内容を関係教員間で共有している。	A
評価項目 5 卒業の認定及び学習の成果に関すること。		
5.1	学習成績の判定・修了(卒業)認定を適切に行っている。(以下小項目を点検)	
5.1.1	成績の判定基準及び方法をカリキュラムの編成と同時に制定している。	A
5.1.2	成績の判定基準及び方法が開示され、教員全体に周知されている。	A
5.1.3	成績の判定基準及び方法、判定結果を的確に学生に伝えている。	A
5.1.4	修了(卒業)認定が成績の判定結果をもとに行われている。	B
5.1.5	修了(卒業)認定の結果を学生に伝える前に、妥当性を検証する機会を設けている。	A
評価項目 6 生徒への学習上及び生活上の支援に関すること。		
6.1	日本社会を理解し、一構成員として活動するための取組を適切に行っている。(以下小項目を点検)	
6.1.1	留学生活に関するガイダンスを定期的実施し、その効果を確認している。	A
6.1.2	留学生活に関する生活指導担当者が特定され、周知されている。	A
6.1.3	日本社会、日本文化を理解するための活動を行っている。	A
6.2	進路指導を適切に行っている。(以下小項目を点検)	
6.2.1	進路指導担当者が特定されている。	A
6.2.2	学生の希望する進路を随時把握し、入学時から一貫した指導をしている。	A
6.2.3	進学及び就職に関する資料や情報を収集し、学生に提供している。	A
6.2.4	卒業後の進路を把握している。	A
6.3	安全な留学生活を送るための適切な取組をしている。(以下小項目を点検)	
6.3.1	健康、衛生面について指導する体制を整えている。	A
6.3.2	重篤な疾病や障害、交通事故に遭った場合の対応、及び感染症発生時の措置を定めている。	A
6.3.3	火災、地震、台風等の災害発生時の避難方法等を定め、避難訓練を定期的実施している。	A
6.3.4	必要な場合は母語等による支援体制を整えることができている。	A

6.4	入国・在留に関する指導及び支援を適切に行っている。(以下小項目を点検)	
6.4.1	入管法上の留意点について学生への伝達、指導を定期的に行っている。	A
6.4.2	不法残留者、資格外活動違反者、犯罪関与者を発生させないための取組を継続的にを行い、発生を防いでいる。	A
評価項目7 教育活動等の改善を継続的に行う仕組みに関すること。		
7.1	授業を含む教育活動全体の検証を定期的かつ適切に行っている。(以下小項目を点検)	
7.1.1	検証のための体制、方法及び評価の基準を定めている。	A
7.1.2	「～を実施している」ことの確認だけでなく、「それが実際に効果を上げているか」を、根拠に基づき確認できるような評価システムとなっている。	B
7.1.3	評価結果が教育内容や方法等のプログラム改善、教員の教育能力向上等の取組に反映されている。	B
7.1.4	評価システムを改善していくための検討が常に行われ、実際に改善が行われている。	A
7.2	教職員の自己評価等を含む多方向的な教職員評価を行っている。(以下小項目を点検)	
7.2.1	教職員評価のための体制、方法及び評価の基準を定めて、開示している。	B
7.2.2	上位者からの評価だけでなく、自己評価、相互評価、学生からの評価も含む、多方向的な評価システムが導入されている。	A
7.2.3	評価結果を的確に教員に伝え、それが教員の能力・資質の向上に結び付いている。	A
7.2.4	評価システムを改善していくための検討が常に行われ、実際に改善が行われている。	A
7.3	教育力及び支援力強化のための取組を適切に行っている。(以下小項目を点検)	
7.3.1	新任教員、初任教員を対象とし、明示された「必要な能力・資質」を向上させることを目的とした研修を実施している。	A
7.3.2	経験を問わず、所属する教職員を対象に、振り返りの機会を設け、情報の共有や成果の確認を行っている。	A
7.3.3	他機関の実施する研修会等への参加を促している。	A
7.3.4	学習成績の判定基準及び方法の妥当性を定期的に検証している。	A
評価項目8 財務に関すること。		
8.1	日本語教育を継続的に行うために適切な財務状況である。(以下小項目を点検)	
8.1.1	財務状況は、中長期的に安定している。	A
8.1.2	予算・収支計画の有効性及び妥当性が保たれている。	A
8.1.3	適正な会計監査が実施されている。	A
8.1.4	海外の募集代理人に支払われる仲介手数料の適切性を確認している。	A
評価項目9 地域貢献・社会貢献に関すること。		
9.1	地域社会と教育機関や学生とが良好な関係を築くための取組を行っている。(以下小項目を点検)	
9.1.1	日本語教育機関の資源・施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っている。	A
9.1.2	学生ボランティア活動への支援を行っている。	A
9.1.3	公開講座等を実施している。	A

評価方法

- ・A：「達成されている」あるいは「適合している」項目。
- ・B：「一部未達成」であるが、1年をめどに達成あるいは適合が確実な項目。
- ・C：「未達成」あるいは「適合していない」項目。